

Amistad Revolt

—「生きる力」としての言語—

徳島 達朗

まえがき

- 1 イギリス Anti-Slavery Reporter 報道にみる Amistad Revolt
- 2 Amistad 裁判の登場人物
 - (1) シンケ
 - (2) ルイス・タッパン
 - (3) ロジャー・シャーマン・ボールドウィン
 - (4) ジョン・クインシー・アダムズ
 - (5) ジョサイア・W. ギブズ
 - (6) ジェームズ・コーヴェイ
- 3 「生きる力」としての言語
 - (1) アフリカ人の筆跡
 - (2) カリ少年の手紙

おわりに

まえがき

前稿において<「アミスタッド号反乱」>をとりあげたが、¹⁾この事件の審理において大きな壁は双方に「言語」が存在しないことであった。言語は交信の手段であり、意思、思想の表明に関わる枢軸である。

「裁判の争点は、彼らが何処から来たのか、西インド生まれの奴隷の子なの

か、アフリカから来た自由人なのかであった。アフリカ人とアメリカ人の間には通じる言葉がなかった。』²⁾「人の移動」には自発的なものと、非自発的(強制的)なものがあるが、後者の場合には、彼らの前に宗教的境界、人種的境界が立ちはだかり、「人なるがゆえの部分」をも抹殺する。³⁾

本稿では、Amistad Revolt を「人なるがゆえの部分」をとりもどす戦いと位置付け、その解放過程における「言語」を問題とする。

1 イギリス Anti-Slavery Reporter 報道にみる Amistad Revolt

イギリス反奴隷制協会 The British and Foreign Anti-Slavery Society の機関紙 The British and Foreign Anti-Slavery Reporter (以下 Anti-Slavery Reporter と略す)⁴⁾ に紹介されたこの事件をみよう。

Amistad 号事件の最高裁審理は、1841年2月22日に開始された。Anti-Slavery Reporter により、当時のイギリスの反響を確認する。

Anti-Slavery Reporter (1841年2月24日付)では、American and Foreign Anti-Slavery Reporter (12号, 13号)が、Amistad 特集を組んでいると紹介し、Amistad 号最高裁審理開始直前の緊張した様子を伝えている。

—世論の高まりはあるものの、最高裁判所の判事の多くは奴隷所有者であるからまったく楽観できず、むしろアフリカ人にとって危険な状態である。Amistad 号アフリカ人に対する同情は自由州ではもちろん奴隷州内でさえも広がってはいるが、殉教にあたる彼らの死、Amistad 号アフリカ人の大虐殺は米共和制下での、のろわれた奴隷制の弔いの鐘となることだろう。—

1841年3月9日、最高裁の判決が下されたのであるが、その朗報を同紙にみよう。Anti-Slavery Reporter (1841年4月21日付)は次のように報じている。

—「アミスタッド・アフリカ人釈放」／ American and Foreign Anti-Slavery Reporter から非常に喜ばしいニュースが届いている。／心おどる喜ばし

いニュースは、とらわれたアフリカ人救済にあたっている委員会への、尊敬すべきジョン・クインシー・アダムス J.Q.Adams の手紙である。—

—拝啓 囚われた者たちは、いまや自由です。地方裁判所の決定のうち、大統領の監督のもとで彼らをアフリカへ送り返すという決定は破棄されました。／彼らは執行官の拘禁を解かれます。—自由。その他の下級裁判所の決定は確定しました。

ワシントン, 1841年3月9日 J.Q.アダムス—

—(アミスタッド)委員会は会合を持ち次のとおり合意した。／解放されたアフリカ人の物心両面にわたり関心をいさぐ人々に広く知らせていくこと。／当委員会は囚われていたアフリカ人に友情を持つ皆さんに対し、アミスタッド号で連行され、その後長い間牢獄に収監されていたアフリカ人が最高裁で無条件で自由を獲得したのだということ。／最高裁の見解は、3月9日火曜日にストーリー Story 判事により発表された。この大いなる救済で、36人の生命と自由が確保され、法と正義と人間の権利の基本的な原則が確立された。全国のすべての教会で全能の神に感謝を捧げる。

ニューヨーク 1841年3月11日 S.S.ジョスリン

ジョシュア・レヴィット

ルイス・タッパン—

2 Amistad 裁判の登場人物⁵⁾

(1) シンケ Cinque

シンケは西アフリカのマニ村 Mani のメンディ人の指導者の息子として生まれた。子供のころからメンディ人の生活、メンディの法律など父の指導性を受け継ぐ教育を受けていた。しかし、シンケは実際に人々を指揮したことはなかった。

シンケの運命は、彼の借金がもとでレイ人 Ley に連れ去られたことで一変した。シンケはガリナス Gallinas の「奴隷収監所」slave factory に連行され、スペインの奴隷商人に売られた。さらに転売され奴隷船テコラ号 Tecora に

積み込まれた。

テコラ号はキューバ島のハバナへ航行し、シンケはしばらく当地で抑留された。その後、彼は49人の男と4人の子どもとともにペドロ・ルイズに売られた。53人のアフリカ人はスペインの沿岸スクーター Amistad 号(Friendship 号)に積み込まれてポルタ・プリンス Porta Prince へ向かった。

Amistad 号は1839年6月27日出航したが、船長、二人のスペイン人船員、クリオール⁶⁾人奴隷、ムラート⁷⁾の奴隷(コック)が乗り組んだ。二人の新奴隷「所有者」である、モンテスとルイズも乗船した。その行程は二、三日の予定であったが、嵐が Amistad の前進をはばんだ。航海は長引かざるを得ない様子で食料も底をつき始めた。船員たちも食料を求める奴隷たちを邪険に扱うようになり、アフリカの何人かを鞭打った。四日目、コックはアフリカ人たちにポルタ・プリンスに到着したら殺されて食われるのだぞと言った。シンケを始めアフリカ人たちは鞭打ちなどのやり方に恐怖心を抱き、そのうえコックの情報も加わり、シンケは機会があれば船を乗っ取ろうと決意を固めた。

シンケは仲間数人に話を切り出した。全員が同じ部族ではなく、お互いに完全に理解し合えるわけではないが、男たちは皆、船の占領に賛成した。シンケはデッキで食事をとらされた時、そこに古釘があるのを知り位置を確認しておいた。シンケはそれを隠し持ち、それを使って彼らを下部甲板に繋いでいる足かせをはずした。彼は他の者たちの鎖を解き自由にした。彼らは船倉へ向かい、そこで砂糖きび伐採用のナイフをみつけ手にした。アフリカ人たちは武装しシンケの指導のもとにデッキで寝ている船長とコックに向かっていった。船長は目をさましアフリカ人としてしばらく戦ったが、シンケに殺された。コックも殺された。二人のスペイン人船員はボートで逃げた。

シンケは指揮をとりモンテスにアフリカに向けて舵をとるよう命じた。モンテスは日中は東に舵を取ったが、夜間は北西、合衆国の方へ舵を取った。シンケは1839年8月26日に合衆国のワシントン号乗員により逮捕されるまで船の指揮権を掌握していた。

(2) ルイス・タッパン Lewis Tappan

ルイス・タッパンはニューヨークのアボリショニスト(反奴隷制論者)であ

り、ジョン・クインシー・アダムズの意見では、Amistad アフリカ人の自由獲得のために最も責任をもって活動した人物である。タッパンは Amistad 号が曳航されてきたという連絡を、コネティカットのアボリショニストから受け取るとすぐに、彼は囚われたアフリカ人のために優秀な法廷代理人を確保し、アフリカ人の保護と食料の確保、大衆の支持の確得、アフリカ人の教育、最終的にはアフリカ人の故国への帰還を実現すべく活動する決意を固めた。

ルイス・タッパンと兄のアーサーは裕福な商人で、アメリカ反奴隷制協会 American Antislavery Society の結成に貢献した。タッパン兄弟は「(奴隷の=徳島)完全な解放」「universal liberty」の唱導者として奴隷制推進論者とテロリストの攻撃目標となった。1834年、一団の暴徒がタッパンの家を破壊したが、その時、反奴隷制協会の会合が開かれていたのである。暴徒は家財道具を往来へ放り出し火をつけたのである。翌年には、姓名不肖なる者が、タッパン兄弟の死体を奴隷州にとどければ100,000ドルの賞金を出すという広告を出した。タッパンは彼の人形を焼かれ、報道でたたかれ、生命保険や家財保険の加入も拒否され、野蛮な郵便による警告を受けたが、中身は絞首用ロープの切れ端から奴隷の耳まで入っていた。タッパンは護身のために、ポケットに一冊の新約聖書を入れてあるだけであった。

タッパンは反奴隷制運動のなかに見られる極論のなかにあっても非妥協的なモラリストであった。例えば、タッパンは人種問題の解決には、異人種間の結婚を推奨していた。彼は、人種がその差異を失う「銅色」のアメリカ人を心に描いていた。タッパンは奴隷制を「自由の木の根にとりつく蛆虫」であると、記している。Amistad アフリカ人のアメリカ海岸への到着は、「国民の心に」、「同情心を」賦与することを許す「神の賜物」と考えた。

タッパンはシメオン・ジョスリンやジョシュア・レヴィットと共に「アミスタッド委員会」の結成に参加した。委員会は弁護士を依頼し、訴訟を起こし、アフリカ人に対するあらゆる援助をおこなった。

タッパンは毎回アミスタッド裁判を傍聴し、それを機関紙『解放者』*Emancipator* に記事として掲載した。

(3) ロジャー・シャーマン・ボールドウィン Roger S. Baldwin

スピルバーグの映画では若い駆け出しの弁護士として描かれていたが、ボールドウィンはエール大学出身の46歳の弁護士である。Amistad アフリカ人の弁護を依頼された時、すでに著名であり、奴隷制度には強く反対していた。アボリショニストの運動との最初の出会いは、1831年ニュー・ヘイヴンでの黒人教育機関設立に対する暴徒の妨害と対決したことであった。

ボールドウィンはセオドア・セジュイック Theodore Sedgwick やセス・ステイプルズ Seth Staples の呼びかけで Amistad 支援チームに参加した。彼らは後にエール法律学校を創設するのである。ボールドウィンの法律上の最終目標はアフリカ人の自由を獲得することであり、自分の議論に確固たる自信を有していた。彼の主張は人道的な広い立場から奴隷制そのものを攻撃するよりは、むしろ狭い財産法に基づくものであった。しかしながら、ボールドウィンはルイズとモンテスは有罪であり、アフリカ人は彼らの自由を求めて戦ったのであり犯罪者ではない、「二人のキューバ人は海賊であり死刑に値する」と論じた。

ボールドウィンとジョン・クインシー・アダムズは二人とも合衆国最高裁でアフリカ人の弁護活動を行ったのであるが、最高裁が判決の確信を見出したのはボールドウィンの議論であった。法廷が7対1で、自由なる人間としてアフリカ人の身分を認めたことを知り、ボールドウィンは、「われわれの運動の名誉ある結末」と、喜びを表明した。

ボールドウィンの母親は、独立宣言に署名し、1787年の憲法制定の中心人物であったロジャー・シャーマン Roger Sherman の娘である。ボールドウィンも輝かしい政治家としての経歴を維持した。ボールドウィンはコネチカット州知事に選出され、後にコネチカット州選出の上院議員を歴任した。

(4) ジョン・クインシー・アダムズ John Quincy Adams

ジョン・クインシー・アダムズはジョン・アダムズとアビゲイル・アダムズの息子として1767年7月11日にマサチューセッツ州ブレイントゥリーで誕生。父のジョン・アダムズは合衆国第2代目の大統領となった。彼は思春期まで主に両親の教育を受け、外交官としての父の任地であるヨーロッパで過ごした。後にパリの私立学校で学んだ。彼は在欧中、ライデン大学でも学ん

だ。1785年合衆国に戻りハーバード大学の正規の学生となり1787年に卒業した。

アダムズはボストンの新聞にジョージ・ワシントン大統領の政治的立場を擁護する論文を数本発表した。ワシントン大統領は同盟者としてアダムズの価値を認め、彼を（1794年–1797年）オランダ公使に任命した。1797年、アダムズはベルリン公使に任命され1801年まで在任した。イングランドへ使節として派遣された時、合衆国のロンドン領事の娘ルイザ・キャサリン・ジョンソンと結婚した。

1801年に大統領職にトマス・ジェファソンが選出されたあと、ジョン・アダムズ大統領は息子のベルリン公使の地位を解いた。ジョン・クインシー・アダムズはボストンに戻り法律家の仕事を再開した。彼は一層積極的に政治的役割を果たし、1803年に上院議員に選出された。彼は1806年から1809年までハーバード大学の教授を務めている。

マディソン Madison 大統領が選出されると、アダムズはロシア公使を任命され、当地に1809年から1814年まで滞在した。1812年の戦争の間、和平交渉の任にあたり、その後、イングランドへ合衆国公使として赴任した。その後、ジェームズ・マディソン大統領により国務長官に任命され合衆国に帰った。

アダムズは1824年に大統領選に出馬し、当選したが少数与党であり、1828年の大統領選では当選しなかった。

1830年には、マサチューセッツ州選出の国会議員となった。彼はナショナリズムと奴隷制廃止を声を大にして主張した。彼は1839年に憲法の修正案を提案しようとした。それは合衆国で生まれた者は奴隷ではないというものであった。1839年以降、Amistad アフリカ人の支持者として筆を執った。彼はアフリカ人を守るチームの一員となり、最高裁での弁論でアフリカ人の自由を勝ち取るための支援を行った。

彼は1848年まで国会議員であったが、下院の廊下で倒れ、それがもとで死亡した。

(5) ジョサイア・W. ギブズ Josiah W. Gibbs

ギブズはエール大学の言語学教授であり、彼こそが amistad 事件のアフリカ人自身の物語を最高の責任をもってアメリカ人に橋渡しした人物である。メンディ人の通訳の発見はギブズの懸命の努力の結果なのであった。

ギブズはまずニューヘイヴンの収容所にアフリカ人を訪ねることからはじめた。彼は指を一本あげて、「ワン」と言った。彼はコインを一枚あげて「ワン」と言った。ついに、グラボウはギブズが何をしようとしているのかを理解し、メンディ語の1である「エタ」と叫んだ。ギブズはメンディ語の1から10まで、そのほかいくつもの言葉を蓄積し始めた。こうした努力を続けるなかで、ギブズは大多数がメンディ語を話すけれども、アフリカ人たちの使用しているのは少なくとも三つの異なる言語であると確認できた。

ギブズはニューヘイヴンとニューヨークの港で英語を話せるメンディ人を探し始めた。彼は理解できる者を捜し求めて、黒人がいると近づきメンディ語で1から10まで数え始めた。ニューヘイヴンで、メンディ語を少し理解するジョン・フェリーという船員をみつけたが、彼の語彙は少なすぎて使い物にならなかった。ギブズはニューヨークの港で探索を続けた。奴隷船からイギリス人に救出され、シエラレオネでイギリスのミッションの教育を受けたジェームズ・コーヴェイ James Covey が、Amistad アフリカ人の物語を解明するキーマンとなったのである。ギブズはイギリスの軍艦バザーラ Buzzara 号の艦長の許可をとりコーヴェイを雇い、アフリカ人に会わせるために連れてきたのである。やがて捕虜たちは、彼らのシエラレオネでの生活、捕らえられた様子、航海、反乱について語り始めた。シンケはギブズに自分の話を英語でみなに説明してくれるように頼んだ。ギブズは喜んでそうすると答えた。

1840年1月、ギブズはハートフォード Hartford の地方裁判所でそれを試みた。彼はこれらのアフリカ人が最近アフリカから到着したのか、書類のとおりキューバにすでに何年も住んでいたのかを判断するうえで、言語の持つ重要性を詳細に説明することから始めた。彼は一人一人のアフリカ人の名前が、いかにメンディの場所、事物と一致しているか、もし彼らがキューバに何年もいたのであれば、彼らの名前は「形、音が崩れて」しまっているはずだと指摘した。ギブズの証明はしまいにはジャドソン Judson 判事により阻止

された。判事は「この人々はアフリカからやってきたということは納得できる。それを否定することは無駄だ。」と、宣告した。

(6) ジェームズ・コーヴェイ James Covey

コーヴェイは12歳の時、シエラレオネの農村で、「黒人に誘拐され」、有名なロンボコ Lomboko の奴隷収監所に連れてこられた。そこから奴隷船に乗せられキューバへ向かった。奴隷船はイギリスの軍艦に拿捕され、コーヴェイと他のアフリカ人は解放された。コーヴェイはその後、兵役に従事する決意で、イギリスの軍艦、Buzzard 号に乗組んだ。

1839年、エール大学のジョサイア・ギブズ教授がメンディ語を話す者を探し求めて港を歩いていた時、Buzzard 号はニューヨーク港に停泊中であった。ギブズは20歳のジェームズ・コーヴェイを見つけ出したのである。コーヴェイはニューヘイヴンに来て、捕虜になっている Amistad アフリカ人と出会ったのである。捕虜たちは、メンディ人であつ英語を話す者が、牢獄にやってきたのを知り、非常な興奮と困惑が噴出した。

コーヴェイは少数の者を除いて、メンディ語を話せること、彼の故郷の川についても彼らがよく知っていること、いつどのようにして大西洋を渡ったのかをはっきりと理解した。牢獄でのインタビューを終えて、コーヴェイはニューヘイヴンのアボリショニストに支持をよせる者の家に連れて行かれた。コーヴェイは1840年1月、ハートフォードの民事裁判で反対尋問が準備できるまで、4ヶ月間ニューヘイヴンに滞在した。コーヴェイはニューヘイヴン牢獄でのインタビューについて証言し、シンケや他のアフリカ人が彼らの語る誘拐、恐怖、反乱について通訳した。

コーヴェイは1841年11月、Amistad 号の生き残ったアフリカ人を積んで、アフリカに向かったジェントルマン号に乗船した。

以上、Amistad 裁判の登場人物を紹介してきたが、本稿冒頭で述べたように、この事件の審理における大きな壁、双方に通じる「言語」の不存在を逆転させえた要因に思いを致す時、言語学者ジョサイア・ギブズの努力と役割の大きさを強調しておきたい。もちろん、当時すでにイギリスが奴隷貿易、奴

隷制を廃止・廃棄していた歴史的事実も重い。コーヴェイと出会ったのは偶然もあるが、ギブズ教授をはじめ Amistad 救援委員会の活動の賜物である。

3 「生きる力」としての言語

(1) アフリカ人の筆跡

アミスタッド・リサーチ・センター Amistad Research Center⁸⁾は、ルイジアナ州、ニューオーリンズ New Orleans, Louisiana のチューレン大学 Tulane University にある研究機関である。資料1は筆者に送られてきた同研究所のニュース・レターの題字と本稿と関係のある部分を合成コピーしたものである。

この手紙は説明によると、1841年5月5日付のもので、Amistad アフリカ人の書いたものである。内容は合衆国法廷で自由を獲得できたことについて、ジョン・クインシー・アダムズへの感謝の手紙である。最高裁判所の判決が1841年3月9日に出され、同年11月にはアフリカへ帰還することになるのである。手紙の署名は、バナ Bana, バトゥ Batu, シシ Cici, フーレ Foole, カリ Kali, キンナ Kinna, ゼングベ(シンケ) Cinque が行っている。一番目の手紙は当時10歳であったカリ少年の手紙である。

(2) カリ Kali 少年の手紙

資料2は筆者が Mystic Seaport Museum から入手した図書 *The Amistad Slave Revolt*⁹⁾ よりのものである。カリ少年は当時10歳であり、人気者であったという。

資料2のカリ少年の手紙は、最高裁判所の審理を前にしてジョン・クインシー・アダムズ宛のものであり、学習し習得した英語でその心情を伝えている。子どもらしい表現であるが、自由を求める意志は読むものに充分伝わる。最後に、「僕らの望みは自由」“All we want is make us free.”と結んでいる。

おわりに

本稿では、Amistad 号反乱と裁判における、人間喪失と人間回復の言語、生きる力として働く言語の重要性とその伝達と獲得の努力に視点をあて、筆者の考えの一端を記した。

- 1) 徳島達朗「アポリショニズム研究(序)「アミスタッド号反乱」—インターネット情報を中心に—」, 九州産業大学『エコノミクス』第3巻第3・4号掲載 (1999年3月)。
- 2) 同上
- 3) 吉沢 南「人の移動 立ちはだかる境界」, 歴史学研究会編 講座世界史12『わたくし達の時代』東京大学出版会 1996年
- 4) 徳島達朗「国際研究所・美術館・学会見聞記—アポリショニズム研究を軸に—」(九州産業大学『エコノミクス』第4巻第2号掲載, 1999年11月)に紹介したように, ロンドンの国際反奴隷制協会で入手したその複写を用いる。
- 5) 登場人物については Amistad Links によった。
* <http://www.law.umkc.edu/faculty/projects/ftrials/amistad>
- 6) 西インド諸島, 南米などに移住した白人(特にスペイン人)。クリオールと黒人の混血児。(西インド, 米大陸生まれの)土着の黒人。
- 7) 白人と黒人の第1代混血児。
- 8) <http://www.tulane.edu/~amistad/guide.html>
- 9) Karen Zeinert, *The Amistad Slave Revolt and American Abolition*. 1997, LINNET BOOKS.

資料 1

Amistad Reports



Where Heritage Meets Vision
Spring 1999

Vol. XIII, No. 1

In The Archives

This letter thanks Mr. John Quincy Adams for his successful work through the U.S. courts in winning the freedom for the captured Africans brought to this country on the Amistad. Bana, Batu, Cici, Foole, Kali, Kinna, and Sengbe (Cinque) wrote and signed the correspondence dated May 5, 1841. (American Missionary Association Archives)

54
Farmington. May, 5th. 1841.

Mr John Q Adams
Dear Friend

AMERICAN ARCHIVES
MAY 12 1841

We thank you very much because you make us free & because you love all Mandi people. They give you money for Mandi people & you say you will not take it, because you love Mandi people. We love you very much, & we will pray for you when we rise upon the morning & when we lie down at night. We hope the Lord will love you very much & take you up to heaven when you die. We pray for all the good people who make us free. Mandi people want to make us slaves but the great God who has made all things will take up friend Mandi people beyond us Mr Adams that he may make us free & all Mandi people free Mr Adams we write our names for you. Kali.

Mr Adams
Dear friend We write this to you because you plead with the Great Court to make us free and now we are free and joyful we thank the Great God. I hope God will take you dear friend Mandi people will remember you when we go to our own country & we will tell our friends about you and we will say to them Mr Adams is a great man and he pray for us and how very glad we are and our friends will love you very much because you was a very good man and oh how joyful we shall be. We hope the great God will send down his Holy Spirit

Mr Adams We write our names for you in this Bible that you may remember Mandi people. Some cannot write so we write for them.

Kali Cinque Cici Kinna Sabanna
Banna Sengbe Batu

資料 2

Kali's Letter

The Africans had a difficult time understanding why they were imprisoned. Before the Supreme Court hearing, one of the children, Kali, wrote to John Quincy Adams, to ask for freedom. Although the boy's English is not perfect, no one could mistake his pain and frustration or his desire for freedom.

Dear Friend Mr. Adams:

I want to write a letter to you because you love Mende people, and you talk to the grand court. We want to tell you one thing, Jose Ruiz say we born in Havana, he tell lie. . . . We all born in Mende [country]. . . .

We want you to ask the Court what we have done wrong. What for Americans keep us in prison? Some people say Mende people crazy; Mende people dolt [stupid] because we no talk America language. Merica people no talk Mende language; Merica people dolt?

They tell bad things about [us] and we no understand. Some [visitors] say [we are] very happy because [we] laugh and have plenty to eat. Mr. Penleton [the jailer] come, and [we] all look sorry because [we] think about Mende land and friends we no see now. Mr. Penleton say [we look] angry; white men afraid of [us]. [We] no look sorry again—that why we laugh. But [we] feel sorry, O, we can't tell how sorry. . . .

ONE OF THE MOST POPULAR CAPTIVES in the public's eye was young Kali. This portrait was drawn by William H. Townsend in 1839. Courtesy of the Beinecke Rare Book and Manuscript Library, Yale University.



Dear friend Mr. Adams, you have children, you have friends, you love them, you feel very sorry if Mende people come and carry them all to Africa. We feel bad for our friends, and our friends all feel bad for us. . . . If American people give us free we glad, if they no give us free we sorry—we sorry for Mende people little, we sorry for American people great deal, because God punish liars. We want you to tell court that [we] no want to go back to Havana; we no want to be killed. Dear Friend, we want you to know how we feel. Mende people think, think, think. Nobody know what we think. . . . All we want is make us free.¹⁶